

鯨の食文化を守り伝える



子どもたちに鯨食を伝える取り組みも紹介されました

鯨食文化などについて考えようと、11月21日、「全国鯨フォーラム2014長崎」が市内で開催されました。

フォーラムでは、日本の鯨食文化の歴史や現状についての講演のほか、地元長崎の鯨関係者による長崎の鯨文化を紹介するパネルディスカッションも。

長崎県は鯨肉の1人あたり年間消費量が全国1位。参加者は、料理や祭りなど生活に深く鯨が根付いている長崎の文化や、「鯨のまち長崎」の魅力発信の取り組みについて耳を傾けていました。

■問い合わせ 水産農林政策課(☎820-6562)

人口減少対策に取り組みます



庁内一丸となって取り組みます

2010年の約44万人から、その後の30年で約33万人に減ると推計される長崎市の人口。11月21日、人口の減少に歯止めをかけ、活気あるまちづくりを進めるため、庁内に「人口減少対策推進本部」を設置。雇用の確保や子育て支援などのテーマを相互に関連させながら、有効な取り組みを推進していきます。

国の取り組みとあわせ、市の特性にあった人口減少対策に、スピード感を持って取り組んでいきます。

■問い合わせ 都市経営室(☎829-1111)

人道的な観点から 核軍縮を進める議論を



長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の学生らも会議に同行

「核兵器の人的影響に関する国際会議」(12月8・9日、オーストリア)に日本政府団の一員として出席する朝長万左男 長崎原爆病院名誉院長が、12月3日、市長を訪問。朝長氏と市長は、「被爆70年となる2015年の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて布石となる会議に」と期待を寄せました。

■問い合わせ 平和推進課(☎844-9923)

銅蔵など6棟の復元工事に着手



駐日オランダ大使館参事官を招いて開催

平成8年から、19世紀初頭の建物の復元工事が行われている国指定史跡「出島和蘭商館跡」。11月29日、第3期復元工事の安全を祈願する起工式を開催しました。今回復元されるのは、「銅蔵」と呼ばれる輸出用の銅を保管した建物など6棟。

復元後の建物は平成28年秋から公開される予定で、「出島表門橋」の架橋(詳しくは、9ページ)とあわせて、さらなる出島の魅力アップが期待されます。

■問い合わせ 出島復元整備室(☎829-1194)